

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400976		
法人名	株式会社社会マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺本館		
所在地	名古屋市西区新道一丁目3番12号		
自己評価作成日	令和元年10月31日	評価結果市町村受理日	令和 2年 5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2370400976-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和元年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

企業理念である「人生楽しく自分らしく」をもとに住人様一人一人の想いに寄り添い、地域の一員としての暮らしを大切にしています。身体的拘束適正化委員会では入居時より帰宅願望が強い方、入浴に強い拒否のある方の2名を取り上げました。ご家族様、地域の方、そしてDrの協力をも得て少しずつ改善され、現在は穏やかに過ごされています。今に至るまで時間はかかりましたが、スタッフ間でのコミュニケーション、協力体制の構築が、チームとして機能したと考えます。今後も問題点を把握し、住人様の想いに沿った支援に努めていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は看取りの事例が多く、個々に合わせた「思いが実現できる看取り」にチームで取り組んだ。好物だったビールにトロミをつけたり、好きな歌をリビングで口ずさんだり、疎遠だった親戚と面会できたりと、それぞれの思いに寄り添った看取りとなった。ホームの仲立ちで薄れていた関係が修復された家族もあり、時間をかけて丁寧な対応で「幸せな気持ちになってもらえる支援」に取り組んでいる。帰宅願望のある利用者は、近隣住民の見守り支援を得て実現し、商店主の協力一人で買い物に行くこともできた。管理者と職員が丸となったチーム力と、地域の強力な支援で理念である「人生楽しく自分らしく」を実現している。管理者は、「利用者が得意な事や楽しめる事を増やしていきたい」と考えており、今後の取り組みにも大いに期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	幅下学区のお祭りや敬老会、盆踊りに参加している。以前からお付き合いのある第三幼稚園の焼き芋会に参加を予定している。毎年12月には近所の障害児施設の子供たちと一緒にクリスマス会を行っている。	法人理念の「人生楽しく自分らしく」は玄関や各フロアに掲示され、職員会議で触れて話し合い、職員に浸透している。利用者と共に職員も生活を楽しみ、利用者の笑顔を引き出す支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日買い物で、地域のお店の利用をしている。買い物中に何かあれば助けいただけるので、住人様一人で買い物に出かけたこともある。イベント時には地域の方が送迎のお手伝いをしてくださる事もある。	近隣住民から手作り惣菜や福祉用具を頂いたり、利用者の一時帰宅時や外出時には地域の見守り協力を得たりしている。依頼を受けてホームの車椅子を貸し出すこともあり、地域と双方向の協力関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議にて地域の方に理解、支援の方法について話しをしている。また、菊井中学校の職場体験実習の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長様、ご家族様、民生委員様には、ほぼ毎回ご参加いただき、率直な意見を頂き、地域防災協力の地域提携を結んでいる。	利用者、家族、複数の地域住民、行政の参加を得て年6回開催している。ホームの現状報告や防災、拘束排除等の取り組みの報告、ホームや地域が抱える課題と議題は多岐に渡り、活発に意見を交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所の方もホームに訪問があり、利用者の生活を伝えている。	運営推進会議に地域包括支援センター職員が参加し、助言をしたり研修やイベントを案内したりと、協力関係を築いている。利用者に生活保護受給者がいることから、区の保護課とも緊密に連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外施錠せず、ご利用者様の外に出たいという願いを極力阻害しないようにしている。皆で協力しながら、ご利用者様の安全を見守りながら対応している。	法人で身体拘束委員会を開催し、その内容をユニット会議で職員に周知し、運営推進会議でも報告している。法人全体でスピーチロックを今年度のテーマに掲げ、表現の仕方や口調に気配りしている。帰宅願望を留めるのも拘束と考え、職員意識は一樣に高い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	弊社で、身体的拘束適正化委員会を立ち上げている。3か月に一回参加している。委員会で挙げた項目を持ち帰り、日々身体的拘束になっていないかどうかをユニット会議等で討議している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護団体と契約している利用者様がいる。月に1度来訪されるため、その都度近況報告をしている。しかしながら、全職員が権利擁護の理解には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に話す内容を、会社と協議し、利用者様、ご家族様を交えて懇切丁寧に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々ご意見を伺うようにしているが、定期的に利用者様やご家族様からアンケートを取り、職員に公表し、必要があれば会議などで話し合っている。	家族会や来訪時、電話、アンケート等、家族意見を聞き取る機会が多い。忌憚なく意見が言える関係を築き、出された意見・要望には即時に対応している。ホームの仲立ちで薄くなった家族関係を改善した事例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	弊社で行っている職員アンケート、面談、ユニット会議や、内部監査の聞き取りを通して、会社に対して要望をあげている。職員の要望などを月1回の管理者会議や、部門別会議にて事案をあげている。	月1回のユニット会議や個人面談で、職員意見の聞き取りを行っている。管理者と職員が食事会を行う等、日常から意見交換できる関係にある。ユニット間でサポートし合う支援が定着し、チームワークは極めて良い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度の面談、新職員には週1回の面談をしている。賞与時期は、自己評価表と職員アンケートなどを用いて管理者・スタッフが共に成長できるツールを設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月研修の機会が設けられている。外部研修も周知されており、実際に参加しているスタッフもいる。希望者が参加できるようシフト調整を行っている。初任者研修・認知症実践者研修への参加も会社から案内がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区内のコンソーシアムが毎月行われており、日程が周知されている。他法人の職員との交流もある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない頃の不安の心理状況を理解し、帰りたいなどの気持ちを否定せず、傾聴することで少しずつ信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の来訪時には、積極的にお声掛けし、日々の様子を話したり、些細な事でも話していただける機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント等の情報やご本人のお話やご様子から、支援の方向を見極めている。ご本人から直接お聞きすることを一番と考え、ゆっくりと環境に慣れて頂けるよう、コミュニケーションを密にとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で利用者様の「出来る事・したい事」を、少しでも実現できるように支援しながら、一緒に楽しみ、張りのある生活になるように工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何時でも自由にご家族様が来館頂ける環境を整えている。ご家族様からのご意見をお聞きし、気づきを頂く場面や、ご家族様を巻き込んでいけるよう、こちらからの働きかけをお願いすることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や関係のある方が気軽に来訪していただき、時には一緒にいて頂いたり、外出に連れ出し頂けるように働きかけ、時間を過ごしていただく事もある。	友人や踊りの弟子が訪ねて来て一緒に外出したり、近隣住民の協力を仰ぎながら一時帰宅したりと関係は継続している。野球観戦やパチンコ、編み物等の趣味の継続も支援しており、晩酌をする利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性については、スタッフの中で共有し、時には仲立ちをしながら様子をみている。ユニットに分かれているものの、垣根を超えた関りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでの看取りをさせて頂くことがある。その人らしさを最後まで大切にすることで、終了後もご家族様が来訪され、お話をさせていただく事がある。そういったご家族様の心にも寄り添っていくことを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に沿った生活作りをしている。体調や安全確保できるなどの状況を整え、日々過ごしていただけるようにしている。その際は、ご本人の望みは何か心に傾けている。	日々の会話や生活歴、好みを参考に利用者の思いを汲み取っている。選択肢を提供して自己決定ができるよう取り組んでいる。看取り時に、好物を提供することで回復力を引き出した事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを基に行っているが、ご本人、ご家族、友人などからの情報を集める事にも力を入れている。そこで出た情報を職員で共有し、プランや生活歴に反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々体調、お気持ちは変化することを念頭において様子を職員間で申し送りし、共有している。心身の状況に合わせて臨機応変に対応できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議で話し合い、ご家族様にもご意向について聞き取り、カンファレンスを行い、支援の方向をチームで考え決定している。その際には、ご本人、支援に関わるご家族様・医療等専門職の情報や意見を取り入れている。	認定更新時と状態変化時に、家族も参加したサービス担当者会議を開き、介護計画を見直している。介護記録に、介護計画の目標の実施の有無を記入する欄を設け、評価しやすくして職員の意識向上に繋げている。	日々の支援の中で、利用者の多くの思いは叶えている。介護計画に利用者の課題を反映し、具体的目標を設定した取り組みにも期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌にご本人の様子・スタッフの支援や気づきの項目に分けている。ケアプランを反映させるためのケア日誌だが、まだ理解が浸透していない部分もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様から出た「～したい」をかなえられるような行事計画や、日々の生活の中でのニーズを職員がアンテナを張り、可能な限りこたえていけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの理容室、馴染みの近所のスーパーや八百屋に買い物に行く。また、喫茶店でモーニングを楽しむこともある。地域資源を生活の一部として活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診時にご本人の様子を医師・薬剤師・看護師に伝え心配事等の相談に乗ってもらっている。受診の際にはご家族様にも相談をし納得のいく医療を受けられるように支援している	月2回のホーム協力医の往診には看護職員と薬局が立ち会い、かかりつけ医や専門科の受診にも職員が同行している。希望により歯科の往診もあり、衛生士の定期的ケアで食が改善し、健康が回復した事例もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回専属の訪問看護が入り、利用者様の健康状態を把握しているので、管理者・スタッフは利用者様の近況の報告、相談をしている。急な体調の変化があった時には随時連絡し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の基本情報を速やかに病院へ提示できるようにファイルを準備している。入院中は定期的に病院へ出向き、ご本人の様子を様子を担当医師、看護師から伺うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについて、ご本人、ご家族様に書面にて説明。終末期には再度、可能であればご本人、ご家族様の意向を確認。医療介護連携をし、ご本人らしく終末期を迎えていただけるよう取り組んでいる。	入居時に意向を確認し、看取りの開始時には、協力医が細かく説明して意思を確認している。ホームで吸引器や携帯酸素を備え、急変にも対応できる。「想いが実現できる看取り」をモットーに、家族の立場で考え、その人らしい最期となるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成。常時見える所に掲示。ユニット会議などでも確認・演習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練はもとより、非常食・常備水の配置、町内会長を通じての最新情報の収集などを行っている。	年2回避難訓練を行い、消防からは避難待機場所などの助言を得ている。非常食飲料は3日分を備え、自家発電の導入を検討している。地域と災害時の支援協定を結んでおり、場所や物品の提供を想定している。	近年、地震や異常気象等による災害で、大きな被害が続いている。装備品など、再度点検、検討することも必要であろう。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の性格や、ペースなども考慮しながらここにも良いという気持ちを持てるように、丁寧な声掛けや困ったことを一緒に考えることが出来るように配慮している。	利用者は年長者であり、職員は教えてもらう姿勢をもって接している。それぞれの思いや希望を把握し、自発的に行動できるよう支援している。居室入り口には暖簾を吊るし、プライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の場面でご本人と話をしながら決めたり、食事や更衣時などには、どちらを選んでもいただくのかなど、選択の場を多く持つことで表出しやすい場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画である程度の予定は決まっているが、利用者様のペースやその日の気分によって変わる事も想定し、希望に合わせて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と一緒に選んだり、時にはご自分で選択できる場面を作っている。季節に応じた洋服を選んでいただけるように声掛けすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ終えた食器の下膳や食器洗いなど、できることをお願いしながら一緒に行っている。作るということに関しては課題である。	利用者の希望を聞き、冷蔵庫にある食材でその日のメニューを決めている。夕食のみ配食サービスを活用し、利用者に関わる時間にあてている。利用者は買い出しから下準備、片付けと、一連の工程で活躍している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に応じて食事量、水分摂取量を記録している。特に脱水状態に陥りやすい利用者様については、細かく記録をつけている。栄養摂取の面で不安がある状況があれば往診にて相談を適宜に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援が必要な利用者様については、歯科医・衛生士と相談しながら口腔ケアをしている。往診時にも現在の状況を伝え、治療が必要な時には依頼をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンを知り、適宜トイレ誘導や声掛けをする。リハビリパンツ・オムツを使用される方については、皮膚観察をしっかりと行う。ご本人の体調等に合わせて、また家族様と相談をし、排泄用品の選定等を行っている。	記録から利用者個々のリズムを読み取り、失敗などで自信を無くさないよう、声掛けや誘導を行っている。夜間も声掛けをしており、体調によってはポータブルトイレを使用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な食事や水分摂取から、スムーズな排泄リズムが出来る事を職員や、排泄がきっかけで気持ちに変化する場合もあるということスタッフ間でも話し合っている。医師に相談することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気持ちの状態に応じて臨機応変に対応している。時間の希望にも対応している。拒否の強い利用者様の対応を、ユニット会議等で話し合い、気持ちよく入浴できるよう工夫し、支援している。	週3回程度、午前中に入浴の機会があり、好みに合わせて入浴剤を変えたり、湯温を調節して楽しめるよう支援している。入浴拒否の強かった利用者には、「嫌な事」を一つずつ取り除き、接し方を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はご本人の選択に任せているもののメリハリのある1日を過ごしていただくために、就寝の声掛けをする時もある。就寝中は音や光に配慮し安心して休息できる環境作りに努めている。寝付けない時はゆっくりと話を聞くなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬剤情報を職員間で情報共有している。服薬時の自己を防ぐために、専用ボードを使用している。定期処方薬の変更や屯用の服用時などは少しでも変更があれば、記録や申し送りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調をみながら、トイレ掃除、食器洗い、洗濯物たたみや、日にち書きなど出来る範囲で役割を担って頂いている。また「手伝おうか」と声掛けし、くださる利用者様に一緒に行えるよう働きかけている。偏る傾向はある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出かけたり、近所の馴染みのスーパーに出かけたりする。店員に利用者様の名前を覚えてもらって話しかけられることもある。地域の行事に参加したり、車で回転ずしに行ったり、利用者様の希望に沿った支援が出来るよう、地域の方や家族様にも協力をお願いしている。	日常的に散歩や買い物に出かけ、少人数に分かれて外食や喫茶、全員で季節の花見や芋ほり等、外出の機会が多い。通院受診時に好みのラーメンを食べたり、喫茶店で家族と待ち合わせたり、野球観戦など、一人ひとりの意向に沿った外出支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の個人的なお金は事務所で管理しており、必要なお金はその都度お渡しし、スタッフも同行する。毎日買い物に行きたい利用者様には、スタッフから曜日を決めて出かけるよう提案し、お金を大切に使うように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの利用者様が連絡を取りたいとの申し出があれば、スタッフが操作をすることがある。ホームから家族様へ利用者様ご本人が電話をすることもある。年賀状やご友人からの手紙が来るので、お渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間でくつろいで頂けるよう、テーブルの配置を替えたり、席替えをしたり、利用者様にとって居心地の良い空間となるようにしている。玄関には季節の花を植え、利用者様と一緒に水やりをしている。	リビングではソファで読書を楽しんだり、仲良し同士でお茶を飲みながら談笑したりと、くつろぎの空間となっている。利用者の動きに合わせて各フロアでテーブルの配置を変え、安全にも配慮している。自分の役割とばかりに、毎日トイレを掃除する利用者もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファがあり、利用者様が自由にくつろいでいただけるようにしている。一人で本を読んだり、仲良しの利用者様同士でお茶をしながら、おしゃべりもできる場所になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドの位置を変えたり、家族様が持ってきてくださる利用者様のお気に入りの物を、部屋に飾ったりして、ご本人の居心地の良い居室になようにしている。	鏡台や書籍、家族写真などの馴染みの品が持ち込まれている。居室で湯を沸かしてコーヒーやカップ麺を楽しみ、晩酌や携帯電話で家族と話すなど、一人ひとりの拘りや習慣に寄り添った居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間のスペースは限られているので、テーブルの配置や棚やソファの配置を考え、車椅子で自走しても安全であるように、工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400976		
法人名	株式会社社会マザーズ		
事業所名	グループホーム円頓寺本館		
所在地	名古屋市西区新道一丁目3番12号		
自己評価作成日	令和元年10月31日	評価結果市町村受理日	令和 2年 5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2370400976-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和元年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

企業理念である「人生楽しく自分らしく」をもとに住人様一人一人の想いに寄り添い、地域の一員としての暮らしを大切にしています。身体的拘束適正化委員会では入居時より帰宅願望が強い方、入浴に強い拒否のある方の2名を取り上げました。ご家族様、地域の方、そしてDrの協力をも得て少しずつ改善され、現在は穏やかに過ごされています。今に至るまで時間はかかりましたが、スタッフ間でのコミュニケーション、協力体制の構築が、チームとして機能したと考えます。今後も問題点を把握し、住人様の想いに沿った支援に努めていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	幅下学区のお祭りや敬老会、盆踊りに参加している。以前からお付き合いのある第三幼稚園の焼き芋会に参加を予定している。毎年12月には近所の障害児施設の子供たちと一緒にクリスマス会を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日買い物で、地域のお店の利用をしている。買い物中に何かあれば助けていただけるので、住人様一人で買い物に出かけたこともある。イベント時には地域の方が送迎のお手伝いをしてくださる事もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議にて地域の方に理解、支援の方法について話しをしている。また、菊井中学校の職場体験実習の受け入れをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長様、ご家族様、民生委員様には、ほぼ毎回ご参加いただき、率直な意見を頂き、地域防災協力の地域提携を結んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役所の方もホームに訪問があり、利用者の生活を伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間以外施錠せず、ご利用者様の外に出たいという願いを極力阻害しないようにしている。皆で協力しながら、ご利用者様の安全を見守りながら対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	弊社で、身体的拘束適正化委員会を立ち上げている。3か月に一回参加している。委員会で挙げた項目を持ち帰り、日々身体的拘束になっていないかどうかをユニット会議等で討議している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護団体と契約している利用者様がいる。月に1度来訪されるため、その都度近況報告をしている。しかしながら、全職員が権利擁護の理解には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に話す内容を、会社と協議し、利用者様、ご家族様を交えて懇切丁寧に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々ご意見を伺うようにしているが、定期的に利用者様やご家族様からアンケートを取り、職員に公表し、必要があれば会議などで話し合っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	弊社で行っている職員アンケート、面談、ユニット会議や、内部監査の聞き取りを通して、会社に対して要望をあげている。職員の要望などを月1回の管理者会議や、部門別会議にて事案をあげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度の面談、新職員には週1回の面談をしている。賞与時期は、自己評価表と職員アンケートなどを用いて管理者・スタッフが共に成長できるツールを設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月研修の機会が設けられている。外部研修も周知されており、実際に参加しているスタッフもいる。希望者が参加できるようシフト調整を行っている。初任者研修・認知症実践者研修への参加も会社から案内がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区内のコンソーシアムが毎月行われており、日程が周知されている。他法人の職員との交流もある。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない頃の不安の心理状況を理解し、帰りたいなどの気持ちを否定せず、傾聴することで少しずつ信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の来訪時には、積極的にお声掛けし、日々の様子を話したり、些細な事でも話していただける機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント等の情報やご本人のお話やご様子から、支援の方向を見極めている。ご本人から直接お聞きすることを一番と考え、ゆっくりと環境に慣れて頂けるよう、コミュニケーションを密にとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で利用者様の「出来る事・したい事」を、少しでも実現できるように支援しながら、一緒に楽しみ、張りのある生活になるように工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何時でも自由にご家族様が来館頂ける環境を整えている。ご家族様からのご意見をお聞きし、気づきを頂く場面や、ご家族様を巻き込んでいけるよう、こちらからの働きかけをお願いすることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や関係のある方が気軽に来訪していただき、時には一緒にいて頂いたり、外出に連れ出し頂けるように働きかけ、時間を過ごしていただく事もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性については、スタッフの中で共有し、時には仲立ちをしながら様子をみている。ユニットに分かれているものの、垣根を超えた関りを心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでの看取りをさせて頂くことがある。その人らしさを最後まで大切にすることで、終了後もご家族様が来訪され、お話をさせていただく事がある。そういったご家族様の心にも寄り添っていくことを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望に沿った生活作りをしている。体調や安全確保できるなどの状況を整え、日々過ごしていただけるようにしている。その際は、ご本人の望みは何か心に傾けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを基に行っているが、ご本人、ご家族、友人などからの情報を集める事にも力を入れている。そこで出た情報を職員で共有し、プランや生活歴に反映できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々体調、お気持ちは変化することを念頭において様子を職員間で申し送りし、共有している。心身の状況に合わせて臨機応変に対応できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議で話し合い、ご家族様にもご意向について聞き取り、カンファレンスを行い、支援の方向をチームで考え決定している。その際には、ご本人、支援に関わるご家族様・医療等専門職の情報や意見を取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア日誌にご本人の様子・スタッフの支援や気づきの項目に分けている。ケアプランを反映させるためのケア日誌だが、まだ理解が浸透していない部分もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様から出た「～したい」をかなえられるような行事計画や、日々の生活の中でのニーズを職員がアンテナを張り、可能な限りこたえていけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの理容室、馴染みの近所のスーパーや八百屋に買い物に行く。また、喫茶店でモーニングを楽しむこともある。地域資源を生活の一部として活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診時にご本人の様子を医師・薬剤師・看護師に伝え心配事等の相談に乗ってもらっている。受診の際にはご家族様にも相談をし納得のいく医療を受けられるように支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回専属の訪問看護が入り、利用者様の健康状態を把握しているので、管理者・スタッフは利用者様の近況の報告、相談をしている。急な体調の変化があった時には随時連絡し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様の基本情報を速やかに病院へ提示できるようにファイルを準備している。入院中は定期的に病院へ出向き、ご本人の様子を様子を担当医師、看護師から伺うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りについて、ご本人、ご家族様に書面にて説明。終末期には再度、可能であればご本人、ご家族様の意向を確認。医療介護連携をし、ご本人らしく終末期を迎えていただけるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成。常時見える所に掲示。ユニット会議などでも確認・演習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練はもとより、非常食・常備水の配置、町内会長を通じての最新情報の収集などを行っている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の性格や、ペースなども考慮しながらここにいても良いという気持ちを持てるように、丁寧な声掛けや困ったことを一緒に考えることが出来るように配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の場面でご本人と話をしながら決めたり、食事や更衣時などには、どちらを選んでいたかなど、選択の場を多く持つことで表出しやすい場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画である程度の予定は決まっているが、利用者様のペースやその日の気分によって変わる事も想定し、希望に合わせて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人と一緒に選んだり、時にはご自分で選択できる場面を作っている。季節に応じた洋服を選んでいただけるように声掛けすることもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べ終えた食器の下膳や食器洗いなど、できることをお願いしながら一緒に行っている。作るということに関しては課題である。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康状態に応じて食事量、水分摂取量を記録している。特に脱水状態に陥りやすい利用者様については、細かく記録をつけている。栄養摂取の面で不安がある状況があれば往診にて相談を適宜に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援が必要な利用者様については、歯科医・衛生士と相談しながら口腔ケアをしている。往診時にも現在の状況を伝え、治療が必要な時には依頼をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄パターンを知り、適宜トイレ誘導や声掛けをする。リハビリパンツ・オムツを使用される方については、皮膚観察をしっかりと行う。ご本人の体調等に合わせて、また家族様と相談をし、排泄用品の選定等を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な食事や水分摂取から、スムーズな排泄リズムが出来る事を職員や、排泄がきっかけで気持ちに変化する場合もあるということスタッフ間でも話し合っている。医師に相談することもある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や気持ちの状態に応じて臨機応変に対応している。時間の希望にも対応している。拒否の強い利用者様の対応を、ユニット会議等で話し合い、気持ちよく入浴できるよう工夫し、支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間はご本人の選択に任せているもののメリハリのある1日を過ごしていただくために、就寝の声掛けをする時もある。就寝中は音や光に配慮し安心して休息できる環境作りに努めている。寝付けないうちはゆっくりと話を聞くなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬剤情報を職員間で情報共有している。服薬時の自己を防ぐために、専用ボードを使用している。定期処方薬の変更や屯用の服用時などは少しでも変更があれば、記録や申し送りをするようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体調をみながら、トイレ掃除、食器洗い、洗濯物たたみや、日にち書きなど出来る範囲で役割を担って頂いている。また「手伝おうか」と声掛けし、くださる利用者様に一緒に行えるよう働きかけている。偏る傾向はある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出かけたり、近所の馴染みのスーパーに出かけたりする。店員に利用者様の名前を覚えてもらって話しかけられることもある。地域の行事に参加したり、車で回らずしに行ったり、利用者様の希望に沿った支援が出来るよう、地域の方や家族様にも協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の個人的なお金は事務所で管理しており、必要なお金はその都度お渡しし、スタッフも同行する。毎日買い物に行きたい利用者様には、スタッフから曜日を決めて出かけるよう提案し、お金を大切に使うように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの利用者様が連絡を取りたいとの申し出があれば、スタッフが操作をすることがある。ホームから家族様へ利用者様ご本人が電話をすることもある。年賀状やご友人からの手紙が来るので、お渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間でくつろいで頂けるよう、テーブルの配置を替えたり、席替えをしたり、利用者様にとって居心地の良い空間となるようにしている。玄関には季節の花を植え、利用者様と一緒に水やりをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファがあり、利用者様が自由にくつろいでいただけるようにしている。一人で本を読んだり、仲良しの利用者様同士でお茶をしながら、おしゃべりもできる場所になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドの位置を変えたり、家族様が持ってきてくださる利用者様のお気に入りの物を、部屋に飾ったりして、ご本人の居心地の良い居室になようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間のスペースは限られているので、テーブルの配置や棚やソファの配置を考え、車椅子で自走しても安全であるように、工夫している。		